



題字・天野貞祐

第 68号

平成19年5月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352(直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

----- 主な内容 -----

獨協歴史ギャラリー開設にあたって.....	新井孝重... (1)
定期総会・懇親会のお知らせ.....	(3)
平成18年度決算書.....	(4)
平成19年度予算書(案).....	(5)
ひろば	
船頭小唄と童謡.....	大久間喜一郎... (6)
獨協の教壇に半世紀・新宮譲治先生.....	雪山伸一... (8)
私の近況.....	(9)
クラス会だより.....	(11)
駒込大観音・光願寺・島田俊匡先生に関する報告.....	(15)
学園だより.....	(16)
返信はがき職業欄記入例.....	(16)

獨協歴史ギャラリー開設にあたって

開設準備委員会委員長・獨協大学教授 新井 孝重 (昭和43年卒)

このたび獨協大学天野貞祐記念館の一郭に獨協歴史ギャラリーが開設されました。獨協の歴史に相応しい、厚みのある展観施設が完成したことの意義は、獨協の根幹校である獨協中学・高等学校にとってとりわけ大きく、同窓会諸氏にこの快事をご報告できることを心から嬉しく思っています。

さて、本ギャラリー開設にあたっては、幾つかの柱を設けて準備作業を進めてまいりました。一つ目は学外の研究者が観ても「おもしろい」と思えるだけの、学術的価値を持たせたいということです。それにはあまり独り善がりにならず、なるべく客観的に、わが国近代史の流れの中に、獨協の歴史を位置づける必要があると考えました。クロニクル(歴史年表)の学園年表の脇に一般史年表を付け、たとえば明治期学園の個々の事項が、日本の政治とどのような影響関係を持っていたか、大局の中で分かるようにしました。実はこうすることによって、日本近代における獨協(特に獨逸学協会学校)の歴史的意

義が、真に明らかになると思っています。

二つ目としては、戦後(1945年以後)の獨協新生を担った天野貞祐校長の哲学に光を当てることでした。「天野コーナー」では自筆の原稿・揮毫、著書、写真などを展示しました。また書齋を復元して、そこに天野校長の生涯年譜と思想概略をかがげました。天野哲学は他の名ある思想がそうであるように、“時代”との緊張関係をへて形づくられたものです。天野校長は朝礼の講話のたびに、なぜ人間の「自由」とか「理性」、あるいは「上品さ」(弱いものへの思いやり)というものに強く拘(こだわ)ったのか。それは人間の尊厳を蔑ろにする傲慢や無知や熱狂がかつてのわが国で猛威を振るったからで、天野校長がそうした“時代”の状況と厳しく対決したことと関連します。

天野は『道理の感覚』という書を著し、カントの思想をベースにして人間界における、あるべき秩序の実現のためには、「教養」とヒューマンイズムが欠か

せないことを説きました。また人間の尊厳の理念的存在を保障するには、「理性」とか個人の尊重、「自由」とか「上品さ」といったものが不可欠であることを主張しました。このため当時の国家主義の勢力から激しい非難と圧迫を受け、書物は出版して直ぐに絶版させられました。しかし戦後の獨協教育の中で、それらは「人間教育」としてみごとに生かされたのです。こうした所に光を当てようと考えたわけです。

三つ目の柱としては、「明治の先覚者たち」から「天野」にいたる獨協教育の沿革と精神系譜を、なるべく簡単に理解できるように展示することでした。「創生と原点」「卒業生のアルバム」「歴代校長・学長プロフィール」など、コンピュータグラフィックを多用し、視角を通して理解できる装置を配しました。また獨協教育の精神系譜を図に表し、全体が一目で分かるようにしました。ドイツの長期留学から帰国した北白川宮能久を会長と仰ぎ、品川弥二郎委員長以下西周、青木周蔵、桂太郎、平田東助、加藤弘之、山脇玄ら(いずれもドイツ留学者)、獨逸学協会・獨逸学協会学校の人びとが、出身藩や留学先の学者とどのような関係を持ち、国家学をめぐるいかなる影響を受けていたかを図化し、さらに明治後期の校長大村仁太郎と、そのころ少・青年期にあった天野貞祐が、近代の合理的な諸学問、キリスト教や人道主義、あるいは憲政擁護思想などどう関係していたかを示しました。

*

私たちは来訪者のすべてが、「獨協」についての興味を抱かれ、歴史の中での意義を理解され、何かを感じとっていただければと願っています。とりわけ学園内諸大学・中高校の在校生・卒業生を始め、御父母の方々には、ここで獨協史を学び、考え、そして学園の価値を見出していただければ幸いです。ここでの価値の発見は、かならず獨協に関わった一人一人の自信と矜持につながります。そしてそれらに裏づけられた愛校心が、「獨協」教育協同体の質的な向上力にもつながっていく、と私たちは確信しています。

教職員の方々には、日々忙しい校務のなかで、ともすれば忘れがちな伝統と校風について漠然とではあれ、意識していただければ嬉しいかぎりです。学校教育を取り巻く環境は、かつてなく厳しくなっており、学園内の各校はそれぞれの方法で改革を進め

ていると思います。そのさい獨協史から見出される教育の積極面とはなにか、これを問い直すことは大切です。人間性そのものが、知性といい、品性といい、危機に瀕している現今にあって、獨協の良き伝統・校風を発見・再評価することは、新しい学校づくりに必ず役立つと思います。

歴史ギャラリーを開設するに当たり、以上が私たちの期待していることがらです。おそらく同窓会の皆さんも、概ねはこうしたことを考えておられるかと思えます。歴史ギャラリーが獨協の昔を懐かしみ、これからを考え、希望と自身と誇りを抱かれる機縁ともなれば、幸甚の至りです。そしてまた、皆さんがこの歴史ギャラリーを心のふるさとして下さり、集われることを心から希望します。

*

私たち設立準備委員会は獨協中学高等学校・兼田信一郎、獨協大学・新井孝重、村山新市、獨協医科大学・大塚寛(途中刀川昇二に交替)、姫路獨協大学・合田憲、獨協埼玉中学高等学校・山脇淳、学園本部・谷口学で構成されました。開設に向けた作業は基本コンセプト策定から企画、関係者の調査・連絡・資料提供の依頼、展示内容作りなど、どれも煩瑣で手間のかかるものでした。力量の上でも、私たちの力だけでは開設に漕ぎ付けることは到底できませんでした。そこで、いくつかの幸運な条件と、外部サポーターによる援助によるものであったことを、記しておく必要があります。

云うまでもなく幸運な条件とは、学園の寺野彰理事長と、大学の梶山皓学長・東孝博副学長から大きな支援をいただいたことです。そもそも天野貞祐記念館の一郭に、獨協大学からスペースを提供されねば、この企画の全ては有り得ませんでした。学長・副学長の深い見識によるところは、まことに大と言わねばなりません。つぎに制作面での幸運な条件として、戦前以来の豊かな学園史編纂事業と故齊藤博さんの仕事の蓄積があげられます。齊藤さんの資料・研究誌『獨協百年』5冊、『目で見える獨協百年』『回想・天野貞祐』『獨協学園史』2冊を前提にして、私たちの仕事ははじめて可能となりました。

外部からのサポートとしては、卒業生の雪山伸一さんと元教師の新宮譲治先生による、陰ながらの強力なバックアップがありました。お二方からは「教育精神の系譜」の作図に力を注いでいただき、お陰で館内の展示を総括することができました。またク

口ニクや学校所在の地図作りでも援助を賜りました。そしてまたつぎに獨協中学高等学校の永井伸一校長が同校所蔵の資料展示を快く承諾してくださったことを挙げなければなりません。学園史編纂事業以来の長きにわたり、節目節目で「目白」は一貫して便宜をはかって下さっております。資料のことでは獨協関係者・ご遺族の方、元・現職の教職員からも提供、あるいはお貸しいただきました。

作業の最終工程となると、キャプションのチェックその他、錯綜錯雑した仕事が洪水のごとき様相を呈しましたが、これは学園本部の谷口さんと中村雄佐美さんの見事な差配と実務によって切り抜けることが出来ました。株式会社ランドの千名良樹さんらスタッフの方々は、何度とないキャプションの書き直しや校正の要求をいとわず、制作に力を尽くしてくれました。

ともかくも漸くにして開設できた安堵感と喜びは、私たちにとってはひとしおです。先人・先輩の学園史編纂事業を前提としつつ、たくさんの人々に支えられたことをここに記し、深い感謝の念を表したいと思えます。ありがとうございました。

現 役 員 氏 名

会 長：鈴木 莊太郎（昭35卒）
副 会 長：森 上 克 彦（昭47卒）
監 事：大 場 莊 介（昭23卒）
" : 合 田 憲（昭38卒）
幹 事 長：中 村 昭 美（昭41卒）
副幹事長：谷 口 有 三（昭53卒）
会 計：高 野 邦 彦（昭40卒）
会報編集：竹 内 文 生（昭46卒）

総会にぜひご参加ください

平成 19 年度獨協同窓会及び懇親会は下記の日程で開催されます。総会では、平成 18 年度決算及び事業報告、平成 19 年度予算及び事業計画について報告・審議いたします。また、会則の変更、人事異動についても審議いただくこととなりますので奮ってご参加ください。総会后、例年通り椿山荘にて懇親会を開催いたします。同窓会へ本年入会したメンバーも招待し、在学当時の旧友、恩師が多数参加され、にぎやかに往時を語らい、近況を報告しあう会となっています。

6月16日に平成19年度総会

平成19年度獨協同窓会総会・懇親会を下記のように開催いたします。

日時：平成19年6月16日(土)

場所：

総 会 会 場：獨協中学・高校小講堂

開始時刻：午後5時

懇親会 会 場：椿山荘 1階

ギャラクシー

受付開始：午後6時より

開会時刻：午後6時30分

総会付議事項

第1号議案 平成18年度事業報告及び
平成18年度収支決算報告の件

第2号議案 平成18年度収支差額金処分案
承認の件

第3号議案 平成19年度事業計画及び
平成19年度収支予算案承認の件

第4号議案 次期役員改選の件

懇親会費：(会場受付でお支払い)

昭和17年以前の卒業生……………無料

昭和18年～平成13年の卒業生……………5,000円

平成14年～平成18年の卒業生……………2,000円

平成19年の卒業生……………招待

出欠のご返事は同封の返信用封筒で、6月9日必着をお願いします。欠席なさる方は付議事項をご検討の上、委任状に記名・押印してください。返信用の用紙には職業を記入する欄がありますが、最終ページをご覧の上番号でご記入ください

獨協同窓会 平成18年度 収支決算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

収入の部

(単位:千円)

科目	18年度決算額(A)	18年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 入会金	6,000	6,000	0	30,000円×200名
2 会費	6,500	7,000	500	5,000円×1,300件
3 寄付金	143	10	133	
4 事業収入	388	310	78	
総会会費	363	300	63	
名簿売上代	25	10	15	
5 資産運用収入	122	130	8	利息等
6 その他事業積立金より繰入	1,000	1,000	0	
7 雑収入	0	10	10	
合計	14,153	14,460	307	

支出の部

科目	18年度決算額(A)	18年度予算額(B)	(A)-(B)	摘要
1 事業費	8,834	9,900	1,066	
(1) 総会費	1,344	1,700	356	総会、懇親会費
(2) 会報費(獨協通信)	4,722	4,800	78	66頁号制作費
(3) 事業通信費	1,672	2,000	328	会報発送費等
(4) 慶弔費	143	200	57	
(5) 渉外費	26	100	74	諸会費等
(6) クラス会補助	240	300	60	
(7) 卒業生記念品費	388	500	112	
(8) 中高事業補助	299	300	1	自動除細動器
2 事務費	2,053	3,200	1,147	
(1) 事務運営費	559	900	341	事務通信費、振込手数料等
(2) 管理費	698	1,000	302	事務局費等
(3) 会議費	309	500	191	
(4) 旅費交通費	334	500	166	
(5) 名簿管理費	93	200	107	
(6) 雑費	60	100	40	
3 予備費	0	1,000	1,000	
小計	10,887	14,100	3,213	
4 収支差額金	3,266	360	2,906	
合計	14,153	14,460	307	

貸借対照表

平成19年3月31日現在
(単位:千円)

利付国債	20,000	(基本財産) 基本金	19,000
		(運用財産) 事業積立金	24,149
定期預金	22,000	(1) 名簿積立金	2,000
		(2) 一般事業積立金	22,149
現預金	4,415	収支差額金	3,266
	46,415		46,415

定期預金は4行に預託。

収支差額金処分案

次のとおり、全額積立金に繰入のこととしたい。
(単位:千円)

基本金	1,000
名簿積立金	1,000
一般事業積立金	1,266
計	3,266

獨協同窓会 平成19年度収支予算書(案) 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで

収入の部

(単位:千円)

科 目	19年度予算額 A)	18年度予算額 B)	(A)-(B)	摘 要
1 入 会 金	6,300	6,000	300	30,000円×210名
2 会 費	7,000	7,000	0	5,000円×1,400件
3 寄 付 金	10	10	0	
4 事 業 収 入	310	310	0	
総 会 会 費	300	300	0	
名 簿 売 上 代	10	10	0	
5 資 産 運 用 収 入	220	130	90	利息等
6 一 般 事 業 積 立 金 より 繰 入	1,000	1,000	0	
7 雑 収 入	10	10	0	
合 計	14,850	14,460	390	

支出の部

科 目	19年度予算額 A)	18年度予算額 B)	(A)-(B)	摘 要
1 事 業 費	10,100	9,900	200	
(1) 総会費	1,700	1,700	0	総会、懇親会費
(2) 会報費(獨協通信)	4,800	4,800	0	68,69号制作費
(3) 事業通信費	2,000	2,000	0	会報発送費等
(4) 慶弔費	200	200	0	
(5) 渉外費	100	100	0	諸会費等
(6) クラス会補助	300	300	0	
(7) 卒業生記念品費	500	500	0	
(8) 中高事業補助	200	300	100	図書等
(9) 天野記念館設立の寄付	300	300	300	
2 事 務 費	3,200	3,200	0	
(1) 事務運営費	900	900	0	事務通信費、振込手数料等
(2) 管理費	1,000	1,000	0	事務局費等
(3) 会議費	500	500	0	
(4) 旅費交通費	500	500	0	
(5) 名簿管理費	200	200	0	
(6) 雑費	100	100	0	
3 予 備 費	1,000	1,000	0	
小 計	14,300	14,100	200	
4 収 支 差 額 金	550	360	190	
合 計	14,850	14,460	390	

**同窓会発展のため
同窓会費を納めましょう**
年会費5,000円

自動引き落とし制度をご利用ください。
詳しくは事務局まで



秋の同窓会日程

常任幹事会	10月13日(土)
	母校小会議室
幹事会	11月10日(土)
	市ヶ谷アルカディア

『船頭小唄』と童謡(わざうた)

旧・国語科教諭 大久間 喜一郎

私が小学校へ入ったのは大正13年(1924)のことで、関東大震災の翌年である。私はその頃、父親の仕事の関係で江東区亀戸に居たから、火災からは免れたものの、家は半壊し、庭土はひび割れて泥水を

ひろば

吹き上げ、低湿地の溜まり水は家に向かって逆流して来る恐ろしさであった。私は父に抱かれて辛うじて戸外に避難したのだが、その翌年、同じ亀戸の水神森近くの仮住まいの家から私は小学校へ通うこととなった。

学校での記憶は断片的にしか頭に残っていないが、全校生徒を集めての新学期の朝礼の際に、校長先生が「船頭小唄」という流行歌に触れて、あの歌は歌ってはならない。あの歌が流行したから関東大震災がおこったのだという、そんな訓示があったことだけは不思議と記憶に残っている。当時何も判らなかった幼い身ながら、歌についての臃げな印象と共に校長先生の訓示の趣旨を理解していたことは間違いない。

やがて私達一家は品川へ移った。大震災を契機として倒産した親会社を離れて、父が新たな所属先の近くに居を構えることになったからである。それは一年生の二学期からであった。その頃から私も世間の物事が多少は分かるようになってきた。どんな事情があったかは記憶にないが、品川へ転居して間もなく、私は父に連れられて大井町駅に近い場末の繁華街俗称「三つ又」で映画館へ入った覚えがある。それは多分父の時間潰しの為ではなかったかと思われるのだが、そこで私は生れて初めて活動写真(映画)というものを観た。それは『籠の鳥』という名であったが、後に知ったことは、クローズアップ技法を初めて取り入れた作品で、「逢いたさ見たさに怖さを忘れ」という名高い流行歌を背景に生まれた映画であった。だが、当時の私には何が何だかその筋も判らず、ただ大写しの場面で焼芋を齧(ほおば)る書生の姿が印象に残っただけであった。今から思

えば、父はそんな映画を私に見せる為に私を連れ出したのでは無かったと思う。映画館を出た私達は夕暮れの街で人だかりの一群を見た。和服に古びた袴を着けヴァイオリンを弾きながら唄う若い男、それを取り巻く一群の人々、歌詞のようなものを売り捌く男が一人居て、そして私の幻想でなければ、歌っていた唄はあの『船頭小唄』であった。この情景は私が見た最初でまた最後の大道演歌師の姿であった。大正十三年の夏のことであった。

野口雨情作詞、中山晋平作曲の『船頭小唄』は流行歌謡の原点とされる傑作である。歌詞も世人が口にするほど救い様のな

い絶望的なものではない。当時貧窮のどん底にあった雨情の悲しみがこの歌を作らせたと言うが、後に雨情は民謡詩人として第一人者となった人物である。『船頭小唄』の主人公も己が身を「枯れ芒」に譬えながらも、同じ境遇の中で寄り添う伴侶が有るのである。余りにも暗い歌詞だと言うのはむしろ誤解である。

『船頭小唄』の作曲が楽譜となったのは、藍川由美の著述に依れば大正十年三月のことだという。中山晋平に雨情が作曲を依頼したのが大正八年八月だというから、作曲が出来上がるまでに一年半ほどかかったわけである。その遅れた理由は「余りにも歌詞が暗い」ということであったと言うが、これが正当な理由になるかどうか私には疑問である。しかし、作曲が完成するや、この唄は忽ち津々浦々にまで広がった。これも倉田喜弘によればレコードも各社が争って発売するに至った。だが、それらの唄い手は今日の歌謡曲歌手のイメージとは異なって、いわゆる演歌師と言われた人々の類であったらしい。因に演歌とは明治期の政治的な「演説」に対し、川上音二郎の「オッペケベ節」に代表されるような、唄による政治的主張を「演歌」と言ったのがその起こりであった。そうした演歌が種々変遷を遂げて今日の「演歌」にまで至っている訳である。

さて、話はあちこちへ飛んでしまったが、野口雨情作詞、中山晋平作曲の『船頭小唄』はその退廃的かつ無気力な歌詞により関東大震災が起こったのも当然とするような世論は、既に文明国を自認していた筈の日本人の、実は見せ掛けに過ぎなかった心情を端もなく露呈したものだとは言えないだろうか。

我が日本の正史と言われる『日本書紀』には、人

獨協の教壇に半世紀

学園史研究が認められ 新宮讓治先生に博士号

獨協中学高等学校、獨協埼玉高校、さらに獨協大学で、ほぼ半世紀にわたって社会科そして日本史を教えてこられた新宮讓治先生が、3月20日、獨協大学から博士（ドイツ文化研究）の学位を授与された。先生の研究論文は「獨逸学協会学校の研究」。わが獨協のこれまで知られていなかった側面を、みずから発掘した未公開資料をもとに、明らかにした研究だ。「喜寿を前にして、半世紀を世話になった獨協から、その歴史を研究したことが評価されて博士号を受ける。こんなにうれしいことはない」と先生は語った。先生の博士号取得は3月27日付の朝日新聞埼玉県版でも報道された。

獨協の歴史の半分を生きる

3月20日は獨協大学の卒業式だった。博士号授与式は其中でおこなわれた。若い研究者にはさまれて立つ新宮先生の白髪に、事情を知らない卒業生や父母のげげんそうな視線が注がれた。

新宮先生は1953（昭和28）年4月、明治大学卒業と同時に獨協中学高等学校に就職された。前年12月には天野貞祐先生を校長に迎え、獨協が混乱から立ち直る一步を踏み出したころだった。獨協埼玉高校の構想が具体化すると、設立準備委員として奔走され、1980（昭和55）年の開校と同時に教頭に就任。以降、1996（平成8）年の定年まで、教職員の中核として学校の基盤固めに尽力された。2000（平成12）年からは獨協大学経済学部の非常勤講師（歴史学）、2004（平成14）年からは総合講座「獨協学」の学外講師として、今日に至っている。獨逸学協会学校の創立から、今年秋で124年。その半分近くを教壇から見てきたわけだ。

国会図書館で新資料発掘

先生が獨協の歩みを論文にまとめたいと思った理由はいくつかある。ひとつは、創立100年記念として出版された『獨協学園史』への見方。この記述の一部を情緒過多と指摘する人は少なくない。先生もそのひとりで、いつか自分の考え方による学園史を書いてみたい、と思っていた。



学位記を手に天野先生の前に立つ新宮讓治先生（獨協大学で、雪山写す）

そうした思いが国会図書館で見つけた新資料と結びついた。先生は獨協埼玉高校在任中から「戦争碑」を研究してきた。明治維新以降、西南戦争、日清・日露戦争などの戦没者を追悼して建てられた碑である。その成果はひとまず『戦争碑を読む』（光陽出版社、2000年刊）にまとめた。5年前、戦争碑の新資料を探して国会図書館を訪れた先生が見つけたのが、獨逸学協会学校専修科第1回卒業生で、内務官僚から枢密顧問官にもなった有松英義の文書だった。戦争碑への内務省の対応を確かめたいと読み進めていくと、獨協関係の資料がひとつかたまり出てきた。「いやぁこれだ、と思った。戦争碑のことは頭から消えてしまった」と思い出す。以来、学園史と取り組む日々が続いた。

「正史と異なる視点」を評価

獨逸学協会学校は、薩長藩閥政府の手厚い保護のもとで創設された。しかし、明治憲法が公布され、国会が開設されると、藩閥政治はしだいに崩れてゆく。獨協への財政援助も廃止され、藩閥政治家自身、学校経営への関心を失ってゆく。そうして訪れた経営の危機をどう克服するか。当時、獨協後援会の会長だった有松の文書は、関係者の心の揺れを余すところなく伝えている。

新宮先生の論文は、有松文書を中心にすえて第2次大戦敗戦までの獨協の消長をたどったもの。明治・大正・昭和という歴史の舞台の中で獨協がどのように歩んだか、を詳述している。獨協大学の論文審査では、「『正史』と異なる視点から……学園をとりまく政治・社会的状況と関連させて学園の創設・変遷の様相を記述した『社会史的学園クロニクル』とでも形容しうるユニークな論考」と高く評価された。（昭35卒 雪山 伸一）（論文は3月末、『獨逸学協会学校の研究』として校倉書房から出版されました。定価は7000円。ぜひ書店にご注文ください）

私の近況.....卒業ン十年

音羽に生まれ育ち、歩いて通学できる中学校へと関口台小(椿山荘隣り)から母校へ、高等学校・大学は早稲田へと。友人達のバス通学を羨ましく思ったものでした。社会人、兵役、復員、復職そして地方転勤を経て東京オリンピックを期に杉並区に移り住み40余年...。昔の我が家は首都高五号線の下公園の一部となりました。菩提寺も小日向と近くなので、十年位前までは往来に母校の前を通りましたが立寄りませんでした。母校の益々の発展を祈っております。現在は88才茫洋とした日々を送っております。石井 鉄男(昭12卒)

獨協を卒業してから数年後、兵隊になり、中国の東北部に居た頃、太平洋戦争がはじまった。南海の孤島で負け戦が終わった。そして焼野原の東京に帰って来た。それから夢中で働いた。すべて遠い過去になった。案外長生きして平和な空の下で暮らして。

太幡 誠(昭12卒)

何時も獨協通信を頂き有難う御座います。現在息子の診療所の留守番役で余暇にカメラを楽しんで居ります。音羽九丁目から長い坂を上って通学した日々が懐かしいです。東京は遠くなりました。益々のご活躍をお祈り致します。中島 一(独・昭12卒)

昨年秋、喜寿を迎えましたが、難病の妻の介護と家事全般に明け暮れの昨今です。小林 哲夫(昭22卒)

国防色の制服と戦闘帽で入学、動員は砲弾の信管造り、焼け残った校舎は窓ガラスも無かった。そんな時代に薫陶を受けた先生方、良くしてくれた友人達に、今改めてお礼を言いたい。柴田 武一(昭22卒)

昨年のごこと、戦時中に罹災して疎開した葦山中(伊豆)及び長野の屋代中と連絡がついて、特に葦山中では在校したことが証明出来て、当時のクラス会に正式メンバーとして加えられ、51年ぶりにクラス会に出席しました。疎開して在校はしたものの獨協に戻って卒業したため、記録が全く残って居なかったものです。

鈴木 伸(昭22卒)

一昨年に“日本尿路結石症研究通覧(医学書院、B5版256頁)”を発売し、国内外の大学(医科系)に寄贈。続いて現在、本邦の尿路(腎、膀胱など)結石の歴史について調べています。高崎 悦司(昭22卒)

卓球の球のように、こころ弾ませて生きてます。卓球の縁で就職も結婚もクリア出来、妻と一緒に楽しくラケットを振る。定年後は立川市で50才以上で互角の技量、安全第一をモットーにクラブを結成し会長とし

て活躍してます。

鶴巻 隆(昭22卒)

戦争、学徒動員と激動の時代を生きてきましたが、何とか昨年喜寿を迎えることができました。現在は、旅行・音楽会・写真を楽しんでいます。いつも獨協通信ありがとうございます。高野 実(昭22卒)

別に変ったことも有りませんが区役所や施設から依頼される身体の不自由な人の送迎の手伝いをやって居ります。高松 成信(昭22卒)

68才です。先ず日本という豊かで、平和な国に生れた事に感謝します。ベテランと若手の先生の絶妙な組合せ。白い新築校舎が気持を一新させた。多感な3年間に獨協に学んだ事がなつかしい思い出。

青野 和雄(昭32卒)

母校の高校を卒業して早50年が経ちました。現在、獨協大学、獨協医科大学等があり、明治時代以来の良き伝統が立派に継承されています。私は、今年70歳(古希)を迎えますが「老いてこそわが人生」の意気込みで、シニアクラブでゲートボール、グラウンドゴルフ、旅行、カラオケ等をやり人生を謳歌しています。

小川 秀明(昭32卒)

ワングル部が昭和30年に発足し、3年前に創部50周年を祝して在校生部員、顧問の先生、OB会員有志で北海道「旭岳」合同登山がよき思い出です。今でもOB会行事に参加しています。若井 永(昭32卒)

卒業50年を迎えました。1回クラス会をしたきりです。皆な元気ですか?会いたいものです。若井君とはときどき会って飲んでいます。元気で仕事しています。僕も現役で地域医療にがんばっています。ときどき内野君が歯の治療に来ます。三須 孝彦(昭32卒)

学校でてから50年、獨協出身の獣医師の方々も増えてきました、大変うれしく思っています。私、北里研究所を定年退職して5年、今、埼玉県獣医師会理事の末席を汚しております。山岸 郭郎(昭32卒)

歯科医院を開業して早くも40年。まだまだ現役として働いています。息子は私の夢を継いで内科医へ車、バイク、オーディオと趣味多い人生を歩んでます。獨協万才!! 飯田 英雄(昭32卒)

〔クレイジーキャッツの五万節のメロディーで〕獨協出てから40年、今や会社の出稼ぎ部長、海外出張の毎日で、旅券の出入国スタンプ五万個。身も心もポロポロですが、あと7~8年は頑張りたいと思っています。

伊藤 和雄(昭42卒)

私の近況.....卒業ン十年

昭和42年の新獨協高校クラス卒で、現在さいたま市で子ども専門の歯科医をしています。その時の同級生と、今でも定期的集まっています。皆職業は別ですが、一生付き合える親友を得たことを母校に、そしてその風土に感謝しています。 塩野 幸一（昭42卒）

医師を目指して獨協へ入学、友人にもめぐまれ目標を達成し、企業病院の院長として医療界の荒波と戦っています。所々で獨協の先輩、後輩の先生とお会いしますが皆良い人々ばかりです。 引間 規夫（昭42卒）

江戸川橋からの急勾配の坂を競う様に友人と登った6年間。椿山荘の緑、東京カテドラル教会の十字の塔が作り出す優しく気品に満ちた環境、何んで、もう少し学業努力を！...と自責の念の団塊世代真只中。人生もう一踏んばり！ 山藤 幹男（昭42卒）

娘は嫁ぎ、息子は就職したため、非常勤となり、夫婦2人で楽しく暮しております。獨協時代、天野貞祐校長の生の声を聞けて、幸運でした。

鈴木 純一（昭42卒）

永年勤続しました川崎社会保険病院を平成18年12月31日退職しました。平成19年2月17日より板橋区大山町にて田丸小児科を開業しました。微力ながら地域の小児医療に貢献したいと思います。

田丸 操（昭42卒）

昭和42年に卒業、獨協大外国語学部へ進学、卒業後即売会社に就職、来年には定年退職になります。就職後7年目に高校時代の友人渡辺則夫氏が当社取引先に勤務されていて久々の再会。又1人息子が5年前獨協中学に入学し、親子2代の獨協生になりました。その息子も来年は卒業を迎えます。 福井 康夫（昭42卒）

獨協の思い出は、6年間のバスケット部活と恩師原田先生との出会い、加えて良き友人に恵まれた事です。団塊の世代、第2の職場で働きつつ、人生のゴールデンタイムをゴルフ、旅行、株、源氏の勉強などで楽しんでおります。 山内 健司（昭42卒）

大手ゼネコンに入社し、情報システムを中心に35年間勤めてきました。早、あと2年弱で定年を迎えます。同級生とも時々逢っています。皆様如何ですか？

曾我 利恵（昭42卒）

今年は高校卒業30年との節目で旧ドイツ語クラスの同窓会を予定しています。古川先生と糸井先生の御参加予定です。住所・連絡先のわからない人がいます。

足立 孝（昭52卒）

5年前より家内といっしょに内科を開業しています。日大獨協会や医師会などで獨協の卒業の多くの方に御世話になっています。越谷市には獨協埼玉中学高校や獨協越谷病院があり獨協関係の方とかかわっています。

大岡 弘之（昭52卒）

卒業して30年、現在は荒川区で開業しています。幸いに長男、次男も母校を経て同じ道をたどろうとしています（特に次男は大学まで同じです）。できれば気の早い話ですが、次世代も男子ならば誰かは獨協へと望んでおります。

呉 成哲（昭52卒）

目白に通っていた頃から早や30年、先生方の目を盗んでバイク通学も（今でも乗ってますが）サボっては先輩に怒られたスキー部の部活も昨日のこの様です。昨年4度目の年男となり、晩婚のせいで9歳長女と3歳長男に翻弄されながら、矯正歯科医として頑張っています。

久志本 明人（昭52卒）

現在、東京都福祉保健局に技官として勤務しています。仕事柄、医師会の方にお会いする機会も多く同窓生にお世話になっています。医療改革の中、医療系で活躍されている方もご苦労が多いと思われます。まだ数年混乱しそうですが、今後とも宜しくお願い致します。久し振りに化学部OB会、開催したいです。

小林 信一（昭52卒）

現在、日本大学医学部放射線科に在籍し、大宮医師会市民病院に勤務しています。 島田 裕司（昭52卒）

獨協医大卒業後、昭和58年～東京医科歯科大眼科、昭和63年～岩手医大、現在は（月）花巻厚生病院、（火）開業医、（水、木）遠野病院の週休3日で、のんびりやっています。

長谷川 豊（昭52卒）

20数年ぶりに学校を訪れてきれいになり驚きました。現在、長男も通わせていただき音海先生もお元気との事、大変うれしく思います。

山崎 孝（昭52卒）

卒後30年、大学附属病院で未だ勤務医をしています。娘が歯学部に入りました。 岩瀬 彰彦（昭52卒）

同窓の方と連絡を取りたい方へ

同窓生の近況を読まれたりして、同窓生と連絡を取りたいという申し出があります。個人情報保護という観点から、同窓会で管理している連絡先に基づき問い合わせた方がご本人かどうか確認したうえで、改めて同窓会からお探しの方の住所等をご連絡しています。

昭和十九年卒ドイツ語科 獨協五三会

平成18年9月29日(金)東中野駅前の日本閣WEST53rdで開催しました。

連絡の取れる34名に連絡し、2名が鬼籍に入られたことを知りました。心からお悔やみ申し上げます。参加した11名は皆元気で、80歳の声をきく今も現役で活躍中の人もあり、また会員には Geigenbau Meister として日本の最高権威、村田君、テレビでお馴染みの温泉博士、植田君など、それぞれ錚々たる顔ぶれが揃っています。半世紀以上も昔の話や、お医者さんや薬剤師さんの意見を参考に、高齢者は如何に過ごすべきかなど、集合写真も撮り忘れるほどに盛り上がり、愉快な一日を過ごしました。また、五三会と会場名の53rdが偶々一致したのも不思議な縁で、次回もここで開催するよう次の幹事の石沢君が手回しよく予約を取っていました。その日もまた、元気で顔を合わせたいものと念願しています。(原 和夫・記)



昭和26年卒 ドイツ語クラス会

11月6日(月)、ジャパンエナジー(株)六本木クラブにおいて開催しました。前回04年12月以来久しぶりのクラス会に14名の出席者がありました。皆が高齢なので、のんびり顔合わせができればということで正午から始めました。

当日、油原君が卒業以来はじめて出席したことで、懐かしい話にもりあがって楽しいひとときを過ごしました。

われわれのクラスは、戦時下の昭和20年に旧制中学に入学、学制改革を伴う混乱期の中に昭和26

年新制高校を卒業しました。その間、多くの先生からお恵みを受けましたが、特にドイツ語の漆山正二先生と接する時間が多くあったことから、幅広い人間教育を受けることができました。その後先生が亡くなられるまでの間も、先生を中心にクラスメイトの互いの交わりも固く続けられてきました。この集いを今回と同じように来年以降もいつまでも、より多くの参加者を得て続けていきたいと願っています。(土屋 隆・記)



昭和34年卒 3年2組クラス会

昨年3年2組のクラス会は65歳記念合同クラス会(昭和34年卒業)と合同で行われましたが、今年は例年どおり恩師神田先生を迎え、11月11日に信濃町の築地日本海で開催しました。今回は1組の横山東洋夫君、3組の西部昶介君も参加戴き、同級生17人の顔ぶれとなりました。昨年の合同クラス会に出席できなかった数人を含め仕事、健康、それぞれの現況など楽しい語らいの2時間でした。会の締めくくりに神田先生のお言葉を戴き、来年の再会を期して散会となりました。

(原 鉄一・記)



クラス会だより

昭和35年卒業 ドイツ語旧クラス

中学に入学したときのクラス担任、新宮謙治先生の博士号取得を祝って、3月23日に神田・学士会館の中華料理「紅樓夢」で開催。高校3年ときの担任の小島晋治先生も、昨秋の胃がん手術を乗り越えて、元気なお顔を見せてくださった。参加者は生徒側9人。「まだ現役」の何人かの不参加が残念だったが、最近社長業好調な小山泰彦君の久しぶりの出席が大収穫。

新資料発掘と論文執筆の苦勞を楽しそうに語る新宮先生。理事を務める「わだつみ記念館」（本郷・東大前。電話03-3815-8571）の戦争体験を風化させじとする努力を淡々と話される小島先生。齢八十を間近になお精神の若さあふれる両先生に、いささか煽られたひとときだった。（幹事・雪山記）



昭和41年卒業 同期会40周年記念会

平成18年10月9日新宿「京王プラザホテル」にて同期会を開催しました。当日は47階から母校が観えるほどの秋晴れで、初参加17名含め、80名の仲間が参加され、乾杯の音頭を4年前に死去された同期の合田舜君の兄である同窓会監事の合田憲先輩にお願いしました。スクリーンには、在学中から現在までのクラス会などの集合写真が映し出され中年への変化にまた先生方達も年をとられた事になぜか納得です。栗原先生の謡曲での締め、そして上林先生、古川先生の校歌で40周年を無事終了しました。

ご出席頂いた諸先生方は、糸井透、上林英雄、神田直人、栗原直大、高木道信、津川良太、橋本

孝、古川成太郎、吉田卓司でした。この5年間で栗原幹夫先生や多くの仲間が死去されましたが次回も元気で再会を望みたいものです。

（土屋 誠治・記）



昭和48年卒業 獨協48会

平成18年10月14日（土）午後7時より、東京目白の椿山荘において、永井伸一校長、奥田千秋前校長、糸井透元教諭、児島康夫元教諭をお招きして毎年恒例となった「獨協48会」を開催しました。今年で連続14年の開催となり、今年も35名の同窓生の参加がありました。

始めに永井先生より母校の教育体制についてのお話があり、特にこれからの母校獨協の発展に期待して欲しい旨のお言葉を頂きました。続いて糸井先生のご発声による乾杯で、和やかな雰囲気懇談の場がスタートしました。

その様な中、幹事より悲しい知らせもありました。昨年の「獨協48会」以降、2名の同窓生（3組 塚田治正君、6組 平林正之君）が病没されたとの報告です。全員でご冥福をお祈りしました。

会も後半に入り、奥田先生並びに児島先生より近況についてお話があり、特に児島先生は現在お勤めの特別養護老人ホームの入所者の生活の一端を語って下さいました。丁度我々の両親位の年齢の方々のお話でしたので、身につまされる思いでした。

最後に、次期クラス会幹事の選出を行ない、「獨協48会」の発展と参加者の活躍、健康、来年の再会を祈念した三本締めにより閉会となりました。

（次期クラス会幹事）

1組 平岡義英、2組 植松弘太郎、3組 石井

クラス会だより

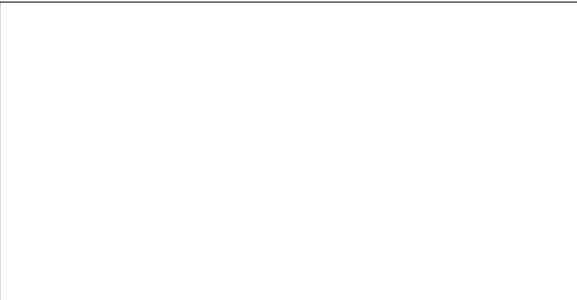
誓二、4組 佐野学、5組 椿 敬、6組 美斉
津 尚史 (記・代表幹事 多田利幸)

昭和52年卒 中学高校1組卒業後30周年クラス会

平成 19 年 3 月 10 日 (奇しくも30年前の卒業式の日)に、中学の主管古川成太郎先生、高校の主管糸井透先生をお招きし、新宿センタービル別館の「音音」にて開催しました。当日は20名の卒業生が盛岡、水戸などから集まりました。

まず、江島君の開会の挨拶、永遠の学級委員長の臼木君の乾杯の発声で会が始まりました。直後に古川先生(御歳83歳とは思えぬ矍鑠ぶり)の話、糸井先生のお話があり、みんな生徒時代に帰って神妙に聞いておりました。次いで各自の近況報告になると、お酒の力も加わり、やんちゃ坊主が何人も現れ、二時間半の楽しい歓談は、あっという間に終わりを告げ、次回の幹事は江島君と兼田君に決定して、幕を閉じました。二次会にも十数名の者が参加し、尽きぬ話に花を咲かせておりました。数時間でしたが、あの時代にタイムスリップして気も心も若返り、千鳥足で帰路に就きました。参加者並びに幹事足立孝君に深謝します。

(記・鹿嶋 広久)



昭和54年卒 1組クラス会

12月16日(土)連家池袋店にて開催致しました。参加人数は10名(先生2名含む)担任の飯島先生、旧獨協時代の担任の新宮先生をお呼びしました。本会は毎年必ず開催を致しております。54年1組OB会も今年で27回目を数えました。年を追うごとに集う仲間の話題も健康や髪の毛など笑)

年齢を感じさせるようになってきました。そのような中で飯島先生・新宮先生は相変わらずお元気で、逆に励まされる思いです。今回も笑いの絶えない集いとなりました。

(幹事・鳥居 誠)



昭和58年卒 同期会

平成 18 年 10 月 28 日(土) 17 時 30 分より渋谷東武ホテルにて昭和 58 年卒の同期会を開催いたしました。

当日は高校時代の主管であった金有一先生、清棲保之先生、冨井源三先生をはじめ、中学時代に主管であり獨協埼玉へ赴任された石井征次先生、太田朝博先生を含め約80名の参加となりました。

卒業以来 23 年間同期会は開催していなかった為、23 年ぶりに会う友達が沢山いて、最初は名札と顔を見比べながら話していましたが、一時間位すると皆記憶がよみがえって来た様で、昔話に花が咲き、大いに盛り上がりました。

再来年は卒業 25 周年となる事から、同期卒業生



300人全員が集れるように皆で協力し、盛大な同期会を開催する事を約束し、また、獨協のレベルアップの為には、僕らが社会に貢献し評価される

クラス会だより

事により獨協がレベルアップするのであるから、皆でがんばろうと言う事を約束し、閉会となりました。
(記・高柳 公康)

都庁獨協同窓会

本会は、東京都に勤務する卒業生が、交友を深める目的で平成16年から卒年、組織横断という形で開催しています。今回は趣向を変え、母校を訪問し、その後、池袋の中華料理店「麗江」にて懇親会を開催しました。母校訪問は、敷地の一角にピオトープが作られ、NHKのニュースに取り上げられたことを田中良会員(昭和54年卒、都議会議員)が知ったことからでした。

当日平成18年12月2日は、永井校長先生、渡邊、笠井両教頭先生にご対応いただき、理科の大山先生のご説明で、ピオトープを拝見し、その後事務室の淀縄係長のご案内で、校舎・体育館を見学しました。大半の参加者が現在の校舎は初めてで、立派な施設に感心したり、自分たちの在学中を彷彿とさせる教室の散らかりように驚いたり、2時間近くにわたって、母校を見学しました。

校長先生からは、母校の発展のためにご尽力されている様子を窺え、一同感謝申し上げます。また当日は、東京都のOBで、事務室長の小川友次さんもご出席くださいました。

今回はより多くの卒業生に参加いただきたく、お願いいたします。当日の出席者は以下のとおりです。永井伸一校長先生、小川友次元事務室長、大沢幸二(昭和40年、福祉保健局)、文山受己(41年、交通局)、高島直樹(44年、都議会議員)、大村博(44年、総務局)、土屋敬之(45年、都議会議員)、内田和博(45年、教育庁)、柳沢潔(49年、交通局)、田中良(54年、都議会議員)、月村修(58年、生活文化局) (記・昭和48卒柳沢 潔)



平成19年度大学別合格者数(延べ人数)

進路指導部・平成19年4月5日現在

< 国公立大学 >	工学院大学	2	帝京大学	7	星薬科大学	2		
東京工業大学	1	國學院大学	5	帝京平成大学	1	北海道医療大学	1	
東京外語大学	2	国際基督教大学	1	東海大学	8	松本歯科大学	1	
電機通信大学	2	国土館大学	4	東京経済大学	2	武蔵大学	2	
東京芸術大学	1	駒澤大学	7	東京歯科大学	1	武蔵工業大学	7	
北海道大学	1	埼玉医科大学	3	東京電機大学	6	武蔵野大学	2	
横浜国立大学	1	埼玉工業大学	1	東京農業大学	4	明海大学	1	
埼玉大学	1	産業能率大学	1	東京薬科大学	3	明治学院大学	6	
富山大学	1	芝浦工業大学	10	東京理科大学	17	明治大学	16	
首都大学東京	1	順天堂大学	2	同志社大学	1	明治薬科大学	2	
小計	11	上智大学	6	東邦大学	3	明星大学	3	
< 私立大学 >	獨協大学	23	尚美学園大学	1	東洋学園大学	2	専修大学	5
獨協医科大学	8	昭和大学	3	東洋大学	11	聖マリアンヌ医科大学	4	
青山学院大学	6	成蹊大学	7	徳島文理大学	1	目白大学	1	
岩手医科大学	2	成城大学	2	南山大学	1	横浜薬科大学	1	
奥羽大学	2	聖マリアンナ医科大学	4	新潟薬科大学	1	酪農学園大学	2	
学習院大学	7	専修大学	3	日本歯科大学	2	立教大学	3	
神奈川工科大学	1	洗足学園大学	2	日本獣医生命科学大学	1	立正大学	3	
神奈川大学	2	大正大学	2	日本大学	36	立命館アジア太平洋大学	1	
金沢医科大学	2	大東文化大学	5	日本薬科大学	1	立命館大学	3	
関東学院大学	1	宝塚造形芸術大学	1	二松学舎大学	1	和光大学	1	
北里大学	8	拓殖大学	3	白鷲大学	1	早稲田大学	7	
杏林大学	2	玉川大学	2	福岡大学	1	小計	397	
近畿大学	1	千葉科学大学	2	文教大学	1	< 海外 >		
慶應大学	8	千葉工業大学	2	法政大学	20	北京外語大学	1	
		中央大学	14			< 専門学校 >		
		中京大学	1					
		鶴見大学	4					

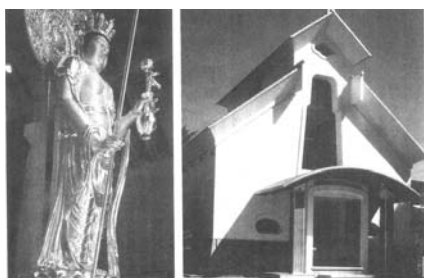
われらの師・島田俊匡先生

(昭和19年～昭和29年在任)

駒込大観音 光願寺

半世紀に亘る 大偉業

戦前、戦後の半世紀を獨協中・高の教師として共に歩まれ、天野貞祐校長を迎えるに至っても多くの生徒に慕われた=島田俊匡先生=についての報告をいたします。 編集部



陽光に輝く堂宇右と
大観音像

島田先生は昭和14年から昭和29年迄の15年間、終戦時の大混乱の時代を挟んで在職されました。戦時中の勤労働員引率や、戦後の学制改革には旧制の中学から現在の六、三、三制へ変革時の中学、高校の設立と言う苦難も体験されました。しかもドイツの敗戦、日本の終戦と共に母校獨協に取っても激動の時期に教務主任などの要職に献身なされました。

昭和29年退職後は早稲田大学教授等、全く多忙の日々を過ごされていたにも拘わらず、獨協同窓会、同期会には常にご来席頂きました。

念願の駒込大観音を再建

島田先生は獨協の教師と同時に、文京区白山に在る駒込光願寺の住職でもあられました。

名刹・光願寺には元禄十年建立の大観音像があり「江戸名所図会」にも記録されておりました。この観音像が昭和20年5月の空襲で堂宇もろとも焼け落ちてしまったのです。

爾來48年間、ついに再建の念願が成就し、平成



5年5月、開眼、落慶の日を迎えました。島田俊匡先生は当日、法衣を整えられ、800人に及ぶ門徒、参列者と獨協教師同輩尾崎善一郎氏はじめ同窓OBたちも参列し見守るなか、大観音像は開眼されたのであります。(獨協通信41号参照)その浄財芳名碑の中に同窓会報でおなじみの「獨協一八会」の銘も残されております。

光願寺本堂・書院・庫裏の再建

島田俊匡先生の亡きあと後継者である島田昭博住職、妻並びに祖母の永年の御努力により、四年有余に亘る日本建築の粋を尽くし新旧建材を選び抜き見事なる完成度をもって平成18年秋建ち上がりました。

現在庭木の植樹等、最後の段階を踏んでおります。

光願寺庭内に「ほおずき千成り市」再開

ほおずき市は7月9日・10日に開催されます。市には住民持ち寄りの盆栽や絵画も展示即売され、ミニ演奏会・歌・躍りにも有志の人達の参加でもり上がり、その企画準備は近くの有志の集まりで主催する人、見る人、共に楽しむ会として成功しています。

どうぞ同窓会諸氏も一度、誘い合わせて御覧頂きたいと思います。 編集部

光願寺、文京区向丘2-38-22 TEL3821-1188
地下鉄・三田線白山駅5分、千代田線千駄木駅5分



● ● ● ● 学 園 だ よ り ● ● ● ●

171人を送り出す 獨協高等学校卒業式

第59回獨協高等学校卒業証書授与式が3月10日、寺野彰学園理事長、鈴木莊太郎同窓会会長、ドイツ連邦共和国大使館ハラルド・ゲーリック文化部長らの臨席のもと100周年記念体育館で行われた。永井伸一校長は「君たちは21世紀最初の新生で思い出深い卒業生である。21世紀は人間中心の世界ではない。他の生物と共存する時代である」と祝辞を述べた。鈴木会長から卒業生全員にDマークのネクタイピンを、小原北土君らに同窓会特別賞が贈られた。

210人の新生 獨協中学校入学式

平成19年度の獨協中学校の入学式が4月6日に行われた。永井校長は式辞の中で「勉強することによって人間形成をして欲しい。自分をコントロールして、他人に配慮して行動することが基本である」と呼びかけた。新生を代表して小林友真君の大きな声で元気な宣誓があった。

獨協中学・高等学校人事

退職 金 有 一 (数学科)

通信用紙の職業欄の記入について

返用紙には是非職業欄の記入をお忘れのないようにお願いします。職業区分は右の表を参考にして該当する番号をご記入ください。また、医師の方は診療科目についてもご記入ください。

ご承知のように、獨協同窓会の中には、職域単位、在学の大学単位などで同窓会が作られています。そして、これらの団体については会則にもあるように同窓会としても承認して、活動に当たっての相談などに乗っております。特に業種ごとの同窓会については連絡先情報の提供などで協力してまいりました。

編集後記

68号はおかげさまで多くの原稿を頂戴し、本号に掲載できない原稿もありました。原稿や記事をご提供くださった皆様にお詫び申し上げます。次号以降で適宜掲載したいと考えています。

本号では大久間先生に興味深いお話をご執筆いただきましたが、母校で教鞭をとられた先生方には当時の思い出など書いていただくべくお願い申し上げているところです。次号以降、ご期待ください。(竹文)

富岡 卓 (英語科)

成田 良行 (芸術科)

小林 正枝 (総務課)

峯 淳 (国語科)

新任 中島 俊博 (国語科)

小池 俊明 (芸術科)

同窓生からの寄付

本年度下記の団体、同窓生から寄付申出があった。

小諸同窓会 (代表・岩内伸幸・58卒)

小諸日進寮維持費として

日本大学医学部獨協会 (荒川泰行会長・35卒)

図書購入費用として

獨協ドクターズクラブ (第8回DDC・世話人荒川泰行・35卒)

図書購入費用として

個人として、菅谷 敦人(58卒)、馬島 徹(45卒)

1. 水産・農林・鉱業	25. サービス・外食・料理旅館
2. 紙・パルプ・繊維	26. 芸術・文化
3. 科学・医薬	27. 宗教・各種団体
4. 石油・ゴム・硝子・窯業	28. 学生・その他
5. 鉄鋼・金属	29. 医師・開業医
6. 電気機器・機械	30. 医師・勤務医
7. 造船・自動車	31. 歯科医師・開業医
8. 事務機その他機器	32. 歯科医師・勤務医
9. その他製造業	33. 薬剤師
10. 電気・ガス・水道	
11. 商社・卸売	医師の診療科一覧
12. 百貨店・スーパー・小売	内科
13. 銀行・その他金融・保険	外科
14. 証券・商品先物	整形外科
15. 建設・不動産	小児科
16. 陸海空運・倉庫	産婦人科
17. マスコミ・通信・広告	眼科
18. 情報・コンピュータ関連	皮膚科
19. 議員・公務員	耳鼻咽喉科
20. 教育	精神神経科
21. 設計士・エンジニアリング	泌尿器科
22. 弁護士・会計士・税理士・その他資格士	放射線科
23. 出版・印刷	麻酔科
24. 医薬・化粧品販売	その他